

令和 4 年度事業計画

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

令和4年度の科学研究費補助金は、継続・新規研究課題として15件が内定しており、新規申請課題として2件を現在申請中で、審査結果を待っている。

(1) 継続研究課題

基盤研究(A)補助金

「出土金属製文化財の保存処理に使用された樹脂の寿命予測について」

令和2年度～令和5年度 植田直見 35,800千円(研究期間直接経費合計額)

基盤研究(B)補助金

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

平成29年度～令和4年度 雨森久晃 11,600千円(研究期間直接経費合計額)

(コロナ禍による海外調査中断の為、再延長)

「保存処理に起因する出土木製品の強度低下について ー調査と対策ー」

令和3年度～令和7年度 川本耕三 13,800千円(研究期間直接経費合計額)

基盤研究(C)基金

「古代中世東アジアにおける服装の伝播と地域性に関する研究

ー髪型と装身具を中心にー」

令和2年度～令和4年度 木沢直子 3,300千円(研究期間直接経費合計額)

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和2年度～令和5年度 三宅徹誠 1,900千円(研究期間直接経費合計額)

「天然素材から合成素材へー現代歴史資料の保存に関する研究」

令和2年度～令和4年度 金山正子 2,800千円(研究期間直接経費合計額)

「武器・武具の祭祀利用の受容と展開」

令和3年度～令和5年度 塚本敏夫 3,300千円(研究期間直接経費合計額)

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」

令和元年度～令和4年度 服部光真 1,900千円（研究期間直接経費合計額）

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」

令和元年度～令和4年度 坂本 俊 2,900千円（研究期間直接経費合計額）
（コロナ禍による進捗状況遅れの為、再延長）

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」

令和2年度～令和4年度 金澤 馨 3,100千円（研究期間直接経費合計額）

(2) 新規研究課題

基盤研究（A）補助金

「地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究」

令和4年度～令和7年度 田邊征夫 32,200千円（研究期間直接経費合計額）

基盤研究（B）補助金

「中性子非弾性散乱法による出土琥珀の産地推定」

令和4年度～令和7年度 山口繁生 12,700千円（研究期間直接経費合計額）

基盤研究（C）基金

「膠着剤のオリジナルな姿を後世に遺せるか-大豆系膠着剤の可逆的な処理法を探る-」

令和4年度～令和6年度 大橋有佳 3,000千円（研究期間直接経費合計額）
（令和3年4月1日付で交付内定、育児休業の為1年間留保手続き）

「木製品の構造と機能の調和に関する実証的研究-工学的解析を用いて-」

令和4年度～令和7年度 桃井宏和 3,200千円（研究期間直接経費合計額）

「図化困難資料の活用を目指した3Dデータ取得・編集・出力に関わる研究」

令和4年度～令和6年度 初村武寛 3,200千円（研究期間直接経費合計額）

(3) 新規申請中課題（計2件）

挑戦的研究（萌芽） 2件

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

総本山長谷寺（奈良県桜井市） 総本山長谷寺文化財等保存調査整理事業

考古学担当

奈良県内を中心に、発掘調査並びに整理作業、調査報告書作製等を行う。
また、石造品調査を各地で予定している。

伝世資料担当

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市） 所蔵資料のコンディション調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を実施する予定である。

保存科学研究グループ

文化財を後世に伝えるには、保存処理後に資料の形状や表面状態などを定期的に調査することが必要である。また同時に、資料の劣化進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるかを調査することも重要である。これらの調査の結果から、今後の改善策を提案している。

受託事業としては、過去に保存処理を実施した大型木製品の保存状態調査や、博物館の展示・収蔵環境調査を行う予定である。

埋蔵文化財保存研究グループ

金属製品・土器担当

出土遺物について、遺物の種類、数量、状態を把握し、今後の保存・復元・活用に向けた基礎整理等業務を行う予定である。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（12）

奈良市内における石造物の悉皆調査は平成元年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

令和4年度も令和3年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行う予定である。

調査・研究の成果については『元興寺文化財研究所研究報告』等に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析等を行う。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

国宝・重要文化財を含む伝世品資料、古文書、絵図面等の紙資料の保存修復を実施する予定である。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

重要文化財を中心とする出土木製品の保存修理を行なう予定である。

金属製品・土器担当

〈金属製品〉

国宝・重要文化財を中心に実施する予定。

〈土器〉

国の重要文化財を中心に実施する予定。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

秋季特別展

『開創400年記念 山の寺念仏寺—近世の南都浄土教寺院—』（仮）

※宗教法人元興寺と共催

開催期間 10月22日（土）～11月13日（日）

開催場所 元興寺法輪館

降魔山善光院念仏寺は、浄土宗僧袋中良定（1552-1639）によって元和8年（1622）に開創され400年を迎える。開山袋中良定は琉球布教の事績で著名だが、念仏寺をはじめ数多くの寺院開創、民衆への念仏教化、経典蒐集、著作執筆、浄土三曼荼羅の研究及び異相本智光曼荼羅の流布などの精力的な活動で知られ、当代を代表する浄土僧である。特に近世浄土教における元興寺智光曼荼羅、ひいては浄土三曼荼羅の位置を知るうえで、袋中の研究と著作による功績は欠かせない。また、袋中以降、江戸時代の念仏寺では、袋中が収集し念仏寺経蔵に納めた古写経、古版経などを毎年曝涼しており、それ

が奈良町の風物詩ともなっていた。享保年間（1716～1736）には、大和郡山の源九郎稲荷を勧請した稲荷社が境内に建立され、こちらも賑わっていたようで、版木や摺り物が残されている。嘉永5年（1852）には、念仏寺の稲荷社で砂持が行われ、幕末には祭りの様相を呈していたという。念仏寺の砂持は大変な賑わいであったようで、奈良町民のみならず興福寺一乗院家の子弟も加わっていた。

念仏寺の歴史は、智光曼荼羅の流布ならびに奈良町民との関わりの中なかで形成されてきたので、これが元興寺法輪館で同展を開催する由縁である。同展では、宗教都市奈良における元興寺智光曼荼羅の位置、近世の浄土教寺院の進出、興隆という視点も併せて概観してみたい。

念仏寺については、これまでに当研究所所員による什宝物の調査をとおして研究成果が蓄積されており、その成果報告の場としても時期、内容ともに相応しいものと考えられる。会期中に講演会、見学会を予定している。

文化講座の開催

実践文化財学

講座編「保存科学から歴史を読むⅡ」

当研究所が創立以来半世紀以上にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所所員がわかりやすく報告する。

場 所 総合文化財センター ルーパ館3階
時 間 13:30～15:00

第1回	6月 8日（水）	「文化財の自然科学的観察」	山口繁生
第2回	7月13日（水）	「民具研究と科学分析」	桃井宏和
第3回	9月 9日（水）	「古文書調査の実際」	酒井雅規
第4回	10月12日（水）	「出土金属製品に残る有機質情報について」	山岡奈美恵

展覧会等の開催支援及び文化財活用事業

文化財企画活用担当

展示支援事業としては、昨年度に引き続き「発掘された日本列島2022」の展示支援事業と、大野城心のふるさと館、大阪大谷大学による企画展示の展示支援事業を予定している。また、各部門における保存台・保存箱の作製について統括・作製を行っており、三次元計測を積極的に利用した保存台の作製だけでなく、復元・複製品の作製も含め積極的に事業展開していく予定である。その中、宮内庁正倉院事務所より委託を受けて令和3年度三次元計測を実施した正倉院宝物（甘竹簾^{かんちくのしょう}）の保存台作製業務を予定している。

『発掘された日本列島2022』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務について、令和4年度については令和3年度の3館から5館に開催館が戻って継続して実施予定となり、総合評価落札方式による一般競争入札方式で実施する旨が告示された。この方式は技術・ノウハウ等の価格以外の要素と入札金額を総合的に評価して落札者を決定する方式である。現在入札のための技術提案書等の書類を提出し、3月22日の改札結果を待っている状況である。

令和4年度は、「新発見考古速報」、「わが町が誇る遺跡」、特集「おうちで楽しむ埋蔵文化財」の三部で構成される。全国で実施されている発掘調査の成果だけでなく、地域において長年蓄積された調査研究の成果を含めて、これらを一堂に会しながら全国を巡回させ、埋蔵文化財のみならず史跡等の文化財に関しても広くその意義と重要性を国民に広報することを目的としている。

「新発見考古速報展」では、近年発掘された遺跡で、発掘調査結果が全国的に注目された縄文時代から近代までの、計14遺跡の紹介が行われ、約370点の資料が出陳される予定である。

「わが町が誇る遺跡」では、個性豊かな遺跡が紡ぎ出す「地域の歴史の魅力」を幅広く発信しようとするもので、地方公共団体が作成した企画に基づき、展示を行う。今回は3つの企画を取り上げ、それぞれの地域における遺跡の継続的な調査研究から見えてきた、地域の人々が歩んだ歴史やその特色について、出土遺物と写真パネルの展示により解説する約150点の資料が出陳される予定である。

特集では、近年利用が著しく進められている動画配信サイトやSNS等を利用した埋蔵文化財の情報発信について紹介される。文化庁の取り組みのほか、注目すべき取り組みを行っている地方公共団体等3つの組織の取り組みについて、パネル等の展示により紹介される予定である。

業務内容は、本展出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、ポスター・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたる。

令和4年度の開催館は下記の通り。

埼玉県立歴史と民俗の博物館（さいたま市）

6月11日（土）～7月18日（月・祝）38日間

だて歴史文化ミュージアム（北海道伊達市）

7月30日（土）～9月4日（日）37日間

石巻市博物館（岩手県）

9月17日（土）～10月23日（日）37日間

宮崎県総合博物館（宮崎市）

11月5日（土）～12月11日（日）37日間

なら歴史芸術文化村（天理市）

1月7日（土）～2月12日（日）37日間

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行う。

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人 荏原 畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2022』（1,300冊）の刊行

公益財団法人 荏原^{えばら} 畠山記念文化財団からの助成金を受けての刊行を予定している。

7. 体験活動

施設見学等

研究、調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。

総合文化財センターにおいては、定期的に一般個人向けの施設見学会を開催する。

開催日は6月8日（水）、7月13日（水）、9月9日（水）、10月12日（水）の合計4回を予定している。

なお団体見学については、業務に支障の無い範囲で日程を調整しながら随時受け入れる。

8. その他

(一財)日本宝くじ協会 令和4年度 公益法人等が行う公益事業への助成事業

平成15年度に日本宝くじ協会の助成により導入した文化財輸送・診断啓発広報車(シバラ1号)は、全国各地で文化財の調査・診断を行い、脆弱で修復が必要な文化財を破損させることなく安全に輸送してきたが、導入から18年を経てシャーシ腐食等の劣化が進み、今後の運用が困難となり令和3年10月に廃車した為、代替車両として輸送環境モニタリングシステム、荷室内空調システム、免振床、エアサスペンションを備えた美術品専用車を申請している。

助成申請額 23,700千円(助成率100%)

※登録諸費用は助成対象外